

萩焼は、山口県萩市にある伝統的な日本の陶器である。それは、16世紀後半の日本の軍事侵攻後に萩にもたらされた韓国スタイルの陶器に由来している。萩焼は茶道で使用される日本の三つの伝統的な焼き物の一つであり、残る二つは楽焼と唐津焼である。

萩焼は地元の陶土を用い、焼きあがると、多孔質がある赤茶色の陶器に仕上がる。萩焼の色のもっとも際立った乳白色を含む萩焼の特徴の色を出すために釉薬が使用される。長い多機能の登り窯で焼き上げには数日をかける。窯の中で温度が下がるため、焼けた後に数日を放置する。窯の中の陶芸品が冷ますながら、釉薬と陶土が様々な速度で縮む。このことにより、細ひび割れのような線ができ光沢が出る。

自然の陶土が原因で現れた陶器は茶道の時お湯が注がれるとお茶を吸い込む。この吸収はその陶器の色を変化させる。この過程は七化けと言われている。萩焼は使用していくあいだに七種類の色に変化していくと言われ、この色の変化が高く評価されているのである。萩焼には多くの形があり、静止、無変化の工芸品とは大きく異なり、伝統的な生きている工芸品なのである。